

ふくしまの将来を担う子どもの体力向上に向けた取組

～《改訂》運動身体づくりプログラムの取組の活性化に向けて（2次）～

福島県教育センター 教員研修チーム 指導主事 小林 真一

## 1 研究の趣旨

平成23年に起こった東日本大震災及び原発事故により児童生徒の体を動かす機会が減少し、4年を経過した現在でも子ども達の体力の低下、肥満傾向の子どもの増加が顕著である。打開策として平成18年度より展開されている運動身体づくりプログラムではあるが、近年の公開授業等を参観すると自校化、マンネリ化という名の下にプログラムの趣旨が失われ、実施しないという現状が見られる。また、改訂された運動身体づくりプログラムの内容等について昨年度も調査研究し発信したが、その活用に課題が見られる。

以上のような理由から、改訂されたプログラムを広く発信していくとともに、研究協力校と連携し、課題に対応できるようプログラムの工夫、改善を図りながら活性化するアイデアについて開発する。さらに1年次研究よりも研究協力校を設定し、プログラムを継続的に実践、工夫していただくことで多くのデータからプログラムが及ぼす運動効果を検証し、信憑性を高めていく。これらの成果は福島県教育研究発表会での発信、福島県教育センターのWebページ、各事務所管轄において実施する運動身体づくりプログラム講座によって紹介し、広く、多くの機会を通じて発信することで、福島県の教員の体育指導力向上及び児童の体力の向上、運動好きな子どもの育成、肥満傾向児童の減少に寄与していきたいと考えている。

## 2 研究の概要

### (1) 研究内容

#### ① 改訂されたプログラム活用と諸課題に対応する工夫改善のためのアイデアの開発

〔具体的な方策〕

- ・学年体育における運動身体づくりプログラムの工夫
- ・特別な支援を必要とする児童への配慮を中心とした運動身体づくりプログラムの工夫
- ・少人数学級における運動身体づくりプログラムの工夫
- ・運動身体づくりプログラムの全校への発信の工夫
- ・主運動につながるプログラムメニューの開発

#### ② 研究協力校におけるプログラムの効果の検証

〔具体的な方策〕

- ・運動身体づくりプログラムの実施回数の確認
- ・昨年度と今年度の当該学年・学級の体力・運動能力テストの結果の比較
- ・4～5月と10月に体力・運動能力テストの結果の比較
- ・児童の意識調査の実施と意識の変容の検証
- ・運動身体づくりプログラムにおける一人一人の子どもの動きの高まりの検証

#### ③ 本研究で得られた成果の発信

〔具体的な方策〕

- ・1次研究課題を踏まえた運動身体づくりプログラム講座の充実
- ・センターWebページからの発信
- ・福島県教育研究発表会での発信

## 3 研究の経過（現時点での成果と課題）

### (1) 研究の成果

現在、研究協力校5校において実践途中である。現時点の成果の一部として次のことが挙げられる。

- ① 学年体育、少人数学級における実施の工夫や特別な支援を必要とする児童への配慮の在り方、プログラムの全校への発信の工夫、主運動につながるプログラムメニューの開発など1次研究の課題に対応するアイデアを開発することができた。
- ② 昨年度と今年度の当該学年・学級の体力・運動能力テストの結果の比較、4～5月と10月に体力・運動能力テストの結果の比較、児童の意識調査の実施と意識の変容の検証によって一人一人の子どもの体力の向上、動きの高まりが見られる。
- ③ 今年度の《改訂》運動身体づくりプログラム講座の受講者数は225名(中学校教諭も含む)であった。また、受講後すぐに取り組んでいただけるようリズム太鼓のたたき方や意欲の高め方、個人差に対応した指導の在り方等を含め講座内容を工夫した。

### (2) 今後の課題

各研究協力校からの検証データ及び実践アイデアを整理し、各学校の実態に合わせて有効に活用いただくことができるような発信の仕方の工夫が必要である。また、調査結果から講座参加とプログラム実施に因果関係が見られる。そこで多くの教員に講座に参加いただくことができるようなシステム作りが必要であると考えられる。